

令和5年度 鹿児島市教育研究会  
小中連携研修会「西紫原中学校グループ」研究のまとめ

1 ねらい

- (1) 小・中9か年にわたり一貫して子どもの教育を担うという視点から、相互の教育活動の参観などを通して実態把握を行い、小・中連携によるよりよい教育活動の創造に資する。
- (2) 生徒指導や学習指導上の諸問題や課題について情報交換を行い、心豊かで、たくましく生きる児童・生徒の育成に役立てる。
- (3) 相互の職員の交流を通して、親睦を深める。

2 グループ名・参加校

「西紫原中学校グループ」 向陽小学校・西紫原小学校・西紫原中学校

3 令和5年度 市教委「小中連携研修会」グループ校別研究主題

児童・生徒一人一人が自分のよさや可能性を高め豊かにしていく小・中連携の在り方  
「確かな学力の育成」 「心に届く指導の充実」  
「家庭との連携を意識した保健指導」 「合理的な配慮を提供する特別支援教育」

4 研究主題設定の理由

急速な科学技術の発展と経済の成長に伴い、豊富な物質や情報があふれている。しかし、便利で快適な生活が営まれるようになった反面、「心の豊かさ」を失いつつあると言われている。このような中、学校、家庭、地域の教育のあり方が問われ、予測不能な社会を展望した教育改革が求められている。特に、これからの学校教育は多くの体験活動を通し、豊かな心や課題解決能力などの「生きる力」を育むことが求められている。

そこで、本校区の学校相互の教育活動を参観することや資料提供などを通して、小学校・中学校が連携を深めたり、それぞれの学校や児童生徒の実態を把握し課題や成果を共有したりすることは、子どもたちのよりよい成長を積極的に支援することにつながると考え、研究主題を設定した。

5 研究の視点

- (1) それぞれの学校の児童・生徒の実態をもとに小・中の共通課題を明らかにする。（相互理解）
- (2) 課題解決のため、小・中が連携して取り組む実践内容を考え、設定する。（相互思考）
- (3) 小・中で連携しながら、共通実践事項に取り組む。（相互実践）

6 令和5年度の研修内容

| 期 日       | 内 容            | 会 場  |
|-----------|----------------|------|
| 4月27日（木）  | 小・中連携研修会推進委員会  | 西紫原小 |
| 5月15日（月）  | 小中連携研修会        | 西紫原小 |
| 8月29日（金）  | NRT学力検査小中合同分析会 | 西紫原小 |
| 11月16日（木） | 検証授業(外国語)研修会   | 西紫原小 |
| 2月29日（木）  | 小・中連携研修会推進委員会  | 西紫原小 |

## 7 研究の実際

### (1) 共通課題の設定

|                            | 学力向上  | 生徒指導  | 保健指導  | 特別支援教育   |
|----------------------------|---|---|---|--|
| 出<br>さ<br>れ<br>た<br>意<br>見 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「目指す子ども像」の設定</li> <li>・「子どものまなびに向かう意識調査」の実施<br/>(年2回)</li> <li>・「NRT合同分析会」での共通実践事項から</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ指導</li> <li>・無言清掃<br/>(目的を明確に)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・けが防止に向けて(子どもたちの体幹を鍛え柔軟性を高める取組)</li> <li>・保健室との連携(保健室登校への対応を含む)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「元気で明るいあいさつ(感謝の言葉も)」への取組</li> <li>・集中力を高める5分間読書</li> </ul> |
| 共通<br>課題                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○「あいさつ」が十分にはできていない。</li> <li>○不登校やいじめ防止に対する取組を進めていく必要がある。</li> <li>○「学力(まなびに向かう力)」を高める取組の継続</li> </ul> |   |   |  |

### (2) 課題解決のための実践内容

#### ◎「あいさつ指導」への継続的取組

(これまで取り組んでいることを生かした各学校の実態に応じた取組)

#### ◎気持ちをととのえる取組(「1分前着席」等、各学校で取り組んできていることを中心に)

#### ◎NRT合同分析の結果や各校の実態を踏まえた授業改善

※課題は共有できているので、それぞれの学校で取り組んでいることを継続して行う

### (3) 実践内容

#### ① 授業研究を通じた課題の共有と情報交換 ～【5/15小中連携研修会】

##### 【第6学年 算数科 「分数×分数」】

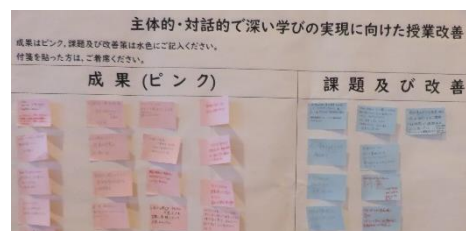
##### 【授業者より】

- ・「授業を通じた小中連携」をという意味での提案授業。
- ・「 $\frac{3}{2}$ をかけるとはどういう意味か」を主体的に考えさせるために、他者による説明も入れながら「分からなさ」を対話を通して追究させることを大切にしたい。
- ・分数の意味に着目させることにより「数学的な見方・考え方」を養う。



##### 【質疑応答より】

- 「コの字型の座席」は、横や斜めとも話をしやすくするため。
- 他の子供と直接的な対話ができなくても「自己内対話」をしていればよいと考えている。また、「分からない」と言える学級づくりを進めている。
- 「めあて」を書かないのは、子供それぞれが自分の中に「めあて」を持って取り組んでいたと考えている。
- 「ノート」～見開き、板書を写すのではなく、思考を残す。
- ねらいや教材によって、板書(黒板)の使い方を変えている。
- 書くことが難しい子への配慮もしていく。



## 第6学年 算数科学習指導略案

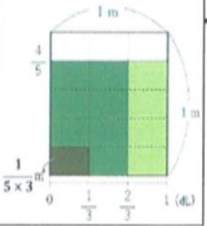
令和5年5月15日(月) 5校時  
6年1組40名 指導者 福富 健

### 1 題材 分数×分数

### 2 本時の目標 (1/11)

問題場面を図、言葉、式、表などに表しながら分数をかける計算の意味を考える活動を通して、数量の関係や分数の意味に着目し、整数から小数へと拡張された乗法の意味を統合的に考えたり、小数をかける計算や分数に整数をかける計算を基にして、計算の意味や仕方を類推的に考えたりすることができる。

### 3 実際

| 主な学習活動  | 時間 | 教師の具体的な働きかけ   |
|---|----|---|
| <p>1 問題を見いだす。</p> <p>1 dLで<math>\frac{4}{5}</math> m<sup>2</sup>のかべをぬれるペンキがあります。このペンキ<math>\frac{2}{3}</math> dLでは、何m<sup>2</sup>ぬれるでしょうか。</p> <p>・面積もペンキの量も分数で表されているから、式を立てるのが難しいな。<br/>・表や数直線に表すと分かりそうだよ。<br/>・この話は、「単位量あたりの大きさ」と「幾つ分」が分かっている。「全体」を求める話だから、今までと同じでかけ算でいいんじゃないかな。</p> <p>分数に分数をかけるとは、どういうことなのか。</p>  | 15 | <p>○ 場面を数理的に捉えることができるようにするために、絵を見せて「どんな話かな。」と問う。<br/>○ 「基準量(単位量あたりの大きさ)」と「割合(幾つ分)」、「比較量(全体)」の数量の関係に着目して立式することができるようにするために、数直線や表に表して立式した考えを取り上げ、演算決定の理由を問う。<br/>○ 分数をかける意味について問題を見いだすことができるようにするために、「この話は、<math>\frac{4}{5}</math>に<math>\frac{2}{3}</math>をかける話ということでもいいんだよね。」と問う。</p>  |
| <p>2 自分なりの見方・考え方で解決を試行し、話し合う。</p> <p>・数直線で考えると<math>\frac{2}{3}</math> dLあたりを求める計算になることが分かるね。<math>\frac{4}{5}</math> m<sup>2</sup>より小さくなりそう。<br/>・分母どうし、分子どうしをかけたら答えを求められそうだよな。でも、説明はできないな。<br/>・意味が分からない時は、今までのように話どおりの図に表したら分かるんじゃないかな。</p> <p>【面積図に表して】<br/></p> <p>【数直線に表して】<br/></p> <p>1 mを5等分したものを更に3等分して単位となる分数を求めて、それが<math>\frac{2}{3}</math> dLあたりだと幾つ分になるかを求めているんだね。</p> | 20 | <p>○ 分数をかける計算のイメージをつかむことができるようにするために、数直線で表すと何が分かるのか問う。<br/>○ 分数の意味に着目し、分数をかける計算の意味や仕方を図などに表して類推的に考えることができるようにするために、「意味が分からない時は、どうすればよいか。」と問う。<br/>○ 分からなさを問い返しながら意味を考えることができるようにするために、考えを表現し他者に説明したり、他者が解釈したりする「図や式などを用いて数学的に表現し伝え合う数学的活動」を位置付ける。<br/>○ 単位分数の幾つ分という分数の意味に着目し、計算の意味や仕方を類推的に考えることができるようにするために、「答えの分母の15や分子の8って結局何なのかな。」と問う。その際、先行知識を基にして分母同士、分子同士をかける計算の仕方について発言する児童がいた場合は、「分母同士、分子同士をかけるると何を求めることができるのかな。」と問う。</p> |
| <p>3 本時の学びを振り返る。</p> <p>「単位量あたりの大きさ」と「幾つ分」が分かっている「全体」を求めるときは、分数であっても整数や小数のときと関係は同じだから、かけ算の式でいいね。分数をかけるというのは、1を何等分しているかということや、そうして求めた単位量あたりの大きさの分数の幾つ分になるかを求めるということなんだね。</p> <p>・整数・小数のかけ算の学習や分数の意味と、つなげて考えるといいんだね。<br/>・分からないことは、図にかいたりみんなで言い直しながらつなげたりするとよく分かるね。<br/>・かけられる数やかける数が他の分数のときにも同じように考えることができるのかな。</p>  | 10 | <p>○ 学びを振り返り、数量の関係や分数の意味に着目し、統合的に考えたり類推的に考えたりする「数学的な見方・考え方」のよさに気付いて、生活や学習に活用していこうとすることができるようにするために、本時で学んだことやよかった学び方について問う。</p>  |

## ② 学力分析を通じた課題の共有と情報交換 ～【8/29 NRT学力検査合同分析会】

・各学校が自校の分析で作成・活用した資料を持ち寄り、課題をもとに共通実践等について協議した。

| 教科  | 共通課題・共通実践  |
|-----|--|
| 国語  | ◎漢字力を向上させる。<br>(navima の活用, 宅習の工夫, 興味を持たせる工夫, 新聞活用の場作り)                      |
| 社会  | ◎基礎基本の定着 (ロイロを活用した問題作成と繰り返しの取組)<br>◎資料を読み解く力の向上 (考察とまとめまで) ◎振り返りの充実 (自分事として) |
| 算数  | ◎子どもたち同士の学びを高める取組 (各学校の実態に応じて)<br>◎協働的・対話的な学びの工夫                             |
| 理科  | ◎記述力を身に付けさせる。(レポートやまとめなど, 文章を書く時間の設定)<br>◎問題意識をもたせる。(見通し, 問題とまとめの一貫性の重視)     |
| 外国語 | ◎日常会話やクラスルームイングリッシュを普段から使っていく。<br>◎アルファベット (大文字・小文字) の定着に向けた練習               |

## ③ 連携を踏まえた授業を通じた課題の共有～【11/16 外国語検証授業研究】

1 単元 世界と日本のつながりを考えよう  
教材名 Let's think about our food (東京書籍 NEW HORIZON)

**<研究主題>**  
自分の思いや考えを明確にもち、伝え合う子供  
～子供が学びをつなげる授業づくり～

**<目指す子供の具体的な姿>**

研究内容1 子供が学びを自覚する姿  
○ 学びを振り返り自覚する  
・ できた、できない、分かった自分の言葉で表現(学び方や学びの内容)

研究内容2 子供が学びを活用する姿  
○ 学びの表現  
・ 自分の考えを言葉で書く、話す(技術だけでなく、考えたこと)

研究内容3 子供が学びをつなげる姿  
○ 単元のつながりの意識  
・ 次時、次単元、他教科のどこに(どこから)つながるか考える

**<単元の目標>**  
○ 例文を参考に、文を読んだり、書いたりすることができる。【知識及内技能】  
○ 相手意識を持って、表現方法を工夫したり、既習事項などを使い表現を膨らませたりすることができる。【思考力、判断力、表現力等】  
○ 目的や相手意識を持って自分の課題を見つけ、友達との表現の良さに気付く、自分の学習に生かしながら考えや気持ちを伝え合うことができる。

**2 指導にあたって**  
研1 自分でめあてを設定することで、より振り返りが次の学習に生かせるようにする。  
研2 目的や相手意識を常に意識させながら、友達と交流し、自分の表現をより深めさせていく。  
研3 本単元で学習した内容だけでなく、既習内容で生かせるものはないか、意識しながら進めさせるようにする。

**3 単元の指導計画(全8時)**

| 過程(時) | 主な学習活動  | 研究内容 |   |   |
|-------|---|------|---|---|
|       |   | 1    | 2 | 3 |
| 1     | 普段食べている食べ物の名前を揃え、今回の学習の大きな目的を知る。<br>[授業士の先生に給食のオリジナルカレーをプレゼンしよう！] | ○    |   |   |
| 2     | 条件の一つである、産地の言い方について書いたり読んだりする。                                    | ○    | ○ | ○ |
| 3     | 条件の一つである、栄養素を考えた言い方を知り、読んだり書いたりする。                                | ○    | ○ | ○ |
| 4     | 今まで学習した内容を振り返りながら、練習したりよりよい伝え方を考えたりする。                            | ○    | ○ | ○ |
| 5・6   | 相手意識を持って表現方法を考えたり工夫したりする。   | ○    | ○ | ○ |
| 7     | 発表をする。発表をして振り返ったり友達の表現の良さに気付かせたりする。                               | ○    | ○ | ○ |
| 8     | 発表の続きをする。日本と世界の食料事情について知る。  | ○    | ○ | ○ |

**4 本時(5/8)**  
目 標 目的や相手意識を持って、今まで習った学習をより工夫して表現することができる。

-----予想される子供の姿-----

-----主な学習活動-----

| 分  | 主な学習活動   | 分  | 具体的な数値の手立て  |
|----|--|----|---|
| 1  | あいさつをする  | 2  |   |
| 2  | Sounds and Lettersをする。   | 3  |   |
| 3  | What did you eat?<br>Are you hungry? を歌う                                     | 4  |   |
| 4  | モデル動画を見る。<br>一自身の以前のもも見る。  | 10 | 研2 目的や相手意識を常に意識させながら、自分の表現をより深めさせていく。                 |
| 5  | 目的の確認をする。  | 6  |   |
| 6  | 目標の具体的な共有をする<br>(レベル1～3)   | 7  |   |
| 7  | 自分自身のめあてを立てる。<br>例) 発表メモを見ずに相手に伝わる声の大きさを伝える。                                 | 10 | 研1 自分でめあてを設定させることで、振り返りが次の学習につながるようになる。               |
| 8  | 自分のめあてに向けて進める。<br>タブレット・動画・友達・先生など色々な方法で。                                    | 9  |   |
| 9  | FRTで友達と交流する。   | 5  | 研2 目的や相手意識を常に意識させながら、友達の表現の良さに気付きながら、自分の表現をより深めさせていく。 |
| 10 | 中間報告。<br>言いたいけど言えなかったこと、困っていること、友達のよかったことを全体で共有。<br>「目的」を振り返らせる。本時にこれで伝わるのか? | 5  |   |
| 11 | 再度FRTで友達と交流する。   | 5  |   |
| 12 | 単元の振り返りを記入する。  | 5  | 研3 子供が次の学習でどうしたいかという思いを持つために、振り返りの時間を確保する。            |

こんな表現でつたえられたらいいな。  
私には何が必要だろう?  
今日はこれができるようにになりたいな。

友達のこういう表現がいいな、私もやってみよう。でも言い方が分からない。  
もっとよりよい伝え方ができるように、何をがんばらたいのかな。

【授業研究より】～定着させるべきものとして、連携という点から大切にしたいこと

- 「魅力的なゴール(目的)を持たせる」「小さな達成感を繰り返す」ことで興味関心を高める。【小】
- ICTの活用は、使わせる場面に留意する。(「正しく書く」という場面ではタブー)【中】
- 「フォニックス」の取り組ませ方【小】

・ 6年生の3学期、朝活動の時間などを活用している。英語の楽しさを味わわせながら、外国語学習への気持ちを育て、中学校での学習にスムーズに入れるよう取り組んでいる。

#### ④ 自校の取組

本校では、「確かな学力の育成」という研究主題に関連して、「鹿児島学習定着度調査」の問題や結果を基に、育成を目指す資質・能力や具現化が求められる学びのあり方について共通理解を図るとともに、児童の学力や学習状況の実態を捉え、学習指導の成果と課題を分析したり、共通実践事項の取組状況について振り返ったりすることで、指導法改善の視点を見だし、授業改善に生かす取組を行ってきた。(以下は、共通実践事項の本年度の振り返り)

#### 令和5年度 2～3学期 教科等における学力向上のための共通実践事項（3学期）

【学期別評価】 4:十分取組んだ 3:概ね取組んだ 2:あまり取組めていない 1:取組めていない

| 教科 | 課題（調査等より）  | 共通実践事項   | 学期 |     |      | 成果や課題、改善策など<br>○成果 ▲課題 ※改善策   |
|----|--|--|----|-----|------|---|
|    |  |  | 1  | 2   | 3    |   |
| 国語 | ① 漢字の書き・読み・ローマ字表記・慣用語の意味理解、古文の理解など基本的な国語の知識や技能の定着に課題                                 | ① 授業の中に音読を積極的に取り入れる。   |    | 3.2 | 3.2  | ○【全般】図書室の本も有効に使いながら、学習を進めることができた。<br>○【読む】音読を続けることで、教材文が頭に入り叙述に即した読みができてようになった。<br>○【読む】音読は繰り返して評価をその都度記録しておけば、明らかに伸びている子もいるので真摯である。<br>▲【読む】読む力の育て方や定着の見どりが難しい。<br>▲【読む】読解力を身につけさせるためには、どのような指導と順序がよいか。      |
|    |  | ② 漢字力定着を図る時間を設定し取り組ませる。  |    | 3.6 | ↓3.2 | ▲【書く】書く力、読解力を高めるための手立て<br>▲【書く】文が書けない児童への手立て<br>▲【言葉】漢字自体は覚えていても、文章中では上手く使えない子供も多い。<br>▲【言葉】漢字を書かせるだけでなく、もっとうちで生活の中で観じませ、習得させるには読書？新聞？視写？漢検？、効果的な方法が子供によって違うような気がするし、いろんな本もあるので迷う。いろいろ試してもコレ！という成果がまだないような... |
| 社会 | ① 基礎基本の定着に課題<br>② 自分の言葉で説明したり、資料から読み取ったことを説明したりする問題に課題                               | ① 図や資料から考えられることを、自分の言葉で表現させる。また、まとめや振り返りを自分の言葉で書かせる。(大事な言葉の提示、振り返りの視点) |    | 2.8 | ↓2.6 | ▲ のびゆく鹿児島だけでは、資料不足であると思うので、タブレットでも調べさせていますが、まだまだ、一人一人の調べる力やまとめる力の差が大きすぎると感じている。<br>▲ 資料集や地図帳を活用しきれていない  |
| 算数 | ① 数量や図形についての感覚や計算の技能（考える際の正確さや速さにも関係）<br>② 数学的な見方・考え方を働かせて意味を考え、問題を解決すること            | ① 授業開始時や休み時間（雨天時の昼休み）などに既習の計算や数遊び、模様作りなどを継続して行う（メイク10、パターンブロック等）。      |    | 2.0 | ↑2.4 | ○ 授業の初めに、既習の計算（復習）の確認をした。<br>▲ 練習問題に取り組む時間の確保。<br>※ 模様づくりなどの教材は、学年棚等においてであると、使いやすくて頻度が上がる気がする。  |
|    |  | ② 「え？なんで？（問い）」や「だって（意味、見方・考え方）」の声がふれるように働き掛けを工夫し、その思いや考えを価値付ける。        |    | 2.8 | 2.8  | ○ コロナが落ち着き、FWT等で気兼ねなく意見の交流ができるようになり、自分の考えを伝えたり友達のことを聞いたりする場面が増えてきた。<br>▲ 教師が求める答え探しては不要、子どもたちが学びたいと思うような課題や発問をさらに考える必要がある。<br>▲ 個人差が大きい、なかなか個別指導ができない。  |
| 理科 | ① 実験・観察方法への理解に課題。原因として、予想をもとにどのような実験を行うことでそれらを確かめることができるのか見通しのないまま実験や観察を行っている可能性がある。 | ① 実験・観察方法を自分たちで考えさせる。(できるかぎり話し合い等も行いながら自分たちで実験計画を立てさせる)                |    | 3.0 | 3.0  | ○ 自分で考えた予想をもとに、実験・観察を行うことで、見通しを持った活動を行うことができた。また、結果から考察を自分で文章化することで、活動を振り返ることができ、学習の定着を図ることができた。  |
|    |  | ② どのような結果が得られれば、自分たちの予想が確かめられるのか見通しを持たせる。(予想と考察を自分の言葉でしっかりとノートへ明文化させる) |    | 3.0 | 3.0  |   |

#### 8 研究のまとめ

共通課題を基にした各校での取組から、以下のような成果と課題が得られた。

##### 【成果】

- ・ 研修会での協議や検証授業における授業研究等の中で、各校の実態をもとにした意見交換をすることで、共通課題や各校での実践を共有し、自校の実践に生かすことができた。
- ・ 他校の状況を知ることにより、自校の課題が明らかになったり、実践の振り返りを行ったりすることができた。

##### 【課題及び改善策】

- ・ コロナ禍明けということもあり、内容やメンバーなど、学校全体としてのかかわりが十分にできていない面があった。
- ・ 前年度のうちに具体的な実践内容まで決めておくと、共通実践のスタートが早くなり、より充実した取組ができるので、今年度の反省を生かした「進め方」についての共通理解を図る必要がある。
- ・ これまでの積み重ねを踏まえての取組も大切ではあるが、小中連携における喫緊の課題を少しでも解決していくために、日頃から情報交換を行ったうえで研究テーマ等を決めていく。

(3校の課題から、R6年度のテーマを「不登校対策」とした。)